

埼玉県「絶滅危惧 IA 類」指定の希少大型水鳥・冬の使者

「オオハクチョウ 2羽」がさいたま市へやってきた！

～埼玉県が県民とともに自然再生に取り組んでいる見沼田んぼ・『芝川第一調節池』に飛来～

報道関係の皆様におかれましては、日頃より当協会の自然や生きものを守りとり戻す取組みに、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

野生の生きものの生息環境と治水の両方の機能を併せ持つ“グリーンインフラ”として注目されている見沼田んぼ（さいたま市・川口市 1260ha）内の『芝川第一調節池（92ha）』で、オオハクチョウ 2羽の飛来が確認されました。つきましては、県民から見沼田んぼ内を始め県内の水辺環境への、オオハクチョウの目撃情報を寄せていただきたく、貴社機関において報道いただけましたら幸いです。

2021年1月6日、埼玉県生態系保護協会浦和支部会員や埼玉県鳥獣保護管理員から、当協会にオオハクチョウと推定されるハクチョウ類が「芝川第一調節池」に飛来したとの連絡があり、当協会研究員が現地でオオハクチョウ成鳥 2羽であることを確認し、撮影しました。埼玉県内で記録されるハクチョウ類は 95%以上がコハクチョウで、オオハクチョウは、近年この「芝川第一調節池」や鴻巣市小谷地区冬みず田んぼで何度かの飛来記録がありますが、その数は少なく、他の場所で見られることはほとんどありません。12月末からの寒波の影響で、「芝川第一調節池」に姿を現した可能性があり、今後の滞在期間や県内への数が増えるかなどが注目されます。

大型鳥類が一つの調節池で長期滞在することは難しいため、地域の水辺環境をつないで滞在できる環境を整えることが望まれます。そのためには、まずオオハクチョウが県内のどこで過ごしているかの情報が必要となります。当協会ではその情報を元にそれらの湿地の自然度を上げて、オオハクチョウやコハクチョウ、その他の水鳥類等がより多く越冬できる良好な環境の整備を進めたいと考えています。

オオハクチョウを観察された方は、当協会までぜひ情報提供の程、お願いします！



水面に浮かぶオオハクチョウの成鳥（1月6日）



自然再生が進む芝川第一調節池

※『芝川第一調節池』

見沼田んぼを流る川の氾濫を抑制する治水施設ですが、自然豊かだったかつての見沼の湿地再生を目標に「調節池型ビオトープ」として埼玉県が整備、県による草刈りや水位の工夫などの環境管理が行われているほか、県民参加によるクリーン作戦などの維持管理活動、動物調査等が、官民一体となって行われています。その結果、オオタカやハマサなどの猛禽類やサギ、ガンカモ類など多様な水鳥が訪れ、県の蝶であるミドリシジミが復活するなど見沼の自然や生きものが戻りつつあることが注目されています。昨年9月に特別天然記念物のコウノトリが飛来・滞在し、大きな注目を集めました。

【問い合わせ・写真データ提供先】